

B3 中国人学習者が有対自他動詞を区別するために使われる文法規則に関する一考察

(予稿集)

孫芳兵 (名古屋大学大学院博士後期課程2年)

1. 研究背景と目的

背景

中国人日本語学習者にとって、有対自他動詞が習得しにくい文法項目の一つだと言われている。従来の先行研究では学習者の使用実態や誤用に着目する研究がほとんどであるが、本研究では中国人学習者の中間言語に注目し、学習者が有対自他動詞を使い分ける際に使用する文法規則を分析することを試みる。

目的

- (1) 学習者の有対自他動詞の使用状況を考察すること
- (2) 有対自他動詞を使い分ける際に使用する文法規則を考察することにより、誤用と繋がる学習者の問題点が明らかにすること。

2. 調査概要

対象

- ・日本での滞在経験のない中国人学習者30名
- ・日本語レベルは中上級レベル
- ・平均日本語学習時間は36か月以上

方法

- I. 母語話者に検証されたビデオを学習者に見せ、使用するつもり動詞を答えてもらう。学習者の回答を録音する。
(調査に用いるビデオは日本の日常生活を想定した場面を表すもので、会話の最後に空白を入れてそこで使用する動詞を学習者に答えさせる)
- II. 答えによってフォローアップインタビューを行い、動詞を使い分ける文法規則を考察する。

実施期間

2017年9月～10月

3. 結果と考察

表1 ビデオ調査の結果

単語	設定した場面	回答
ぶつかる	うっかり椅子にぶつかる	ぶつかる(16)、ぶつける(5)、当たられる(2)等
ぶつける	紙の玉を投げて友達にぶつける	ぶつける(0)、見られる(6)、怒られる(5)、当たる(3)、投げる(2)、睨まれる(2)等
焼く	もちを焼く	焼く(10)、作る(6)、炒める(9)等
焼ける	パンが焼ける	焼ける(8)、できる(9)、焼く(4)等
割る	ごめんなさい、コップを割る	割る(10)、壊す(7)、割れる(6)、壊れる(2)等
割れる	コップが割れる	割れる(16)、壊れる(9)、割る(2)等
変わる	秋になると、葉っぱの色が変わる。	変わる(20)、赤/黄色になる(5)、深まる(2)、染まる(1)、その他(変える等)
変える	防水の靴に変える	変える(12)、履く(6)、着替える(4)、変わる(3)等
動く	風で木の枝が動く	動く(0)、揺れる(21)、折れる(3)等
動かす	机を動かす	動かす(3)、並べる(7)、その他(移す、運ぶ等)

学習者は自他動詞を使い分ける際、用いている文法規則の中で特に注目したいのは以下の3つである。

- ① 「**我使XX发生了变化/人为的动作(動作主から働きかけがあるか)**」
- ② 「**主动做XX/自主的行为(動作主の自主性があるか)**」
- ③ 「**主语是人/主语是物体(主語はものか人か)**」

この3つの文法規則の使用は自動詞と他動詞の使い分けのどちらにも観察され、学習者の自他動詞の使い分けと大きくかかわっていると見える。

4. 今後の課題

- ・日本での滞在経験がある学習者を対象に調査を行うこと
- ・母語話者または他の言語を母語とする学習者と比較すること